社会福祉法人　楽山会
椎 の 実 子 供 の 家
令和５年度　事業報告

新型コロナウイルス感染症が５類になり以前の生活に戻りつつある中、積極的に園外に出たことで、初めての場所へのお散歩や地域の人と触れ合う場面も多くあり、子ども達の経験の場が広がった一年であった。

また、一時保育事業や子育てひろば事業、地域交流スペースの活用と様々な年齢の方に利用していただけたことで、新しい椎の実子供の家を知って貰える機会が増えた。

同時に、保育実習生や学生ボランティアの受け入れを再開することで、子ども達はお兄さん、お姉さんとの交流を楽しみ、学生には保育園が様々な職種の人で子ども達を見守っていることを伝える機会となった。

また、感染症について、新型コロナウイルス感染症が蔓延している間途絶えていた、インフルエンザやアデノウィルス感染症、溶連菌が流行る傾向にあったが、感染予防対策を緩めることなく行うことで、最小限に止めることができた。

また、感染症対策を十分に行いながら、保護者に向けて積極的に保育参観を募り、子どもや保育園に興味や関心を持ってもらえるよう働きかけていった。

重点目標

Ⅰ　子ども主体の活動、遊び、運動あそびを通じて、健康な心と体を育てる

Ⅱ　保護者との共育てを意識し、一人ひとりの成長段階を共有しながら生活習慣の確立を目指す

Ⅲ　幼児教育機関として、モンテッソーリ教育を主体とした保育の充実及び専門性の高い人材育成と職員の定着化を図る

Ⅳ　感染症対策、衛生管理、安全管理の周知及び徹底

Ⅴ　地域子育て支援の継続と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する

Ⅰ　子ども主体の活動、遊び、運動遊びを通じて、健康な心と体を育てる

乳幼児の発達を踏まえ、個々の子どもの興味や欲求に応じた遊びの確保に努め、園庭では年齢に合わせた遊具を準備したり、保育士が仲立ちをすることで異年齢でのコミュニケーションを楽しめるようにするなど、遊びの中でしっかりとした体づくりや、社会性が育つよう関わっていった。

乳児クラスは、できるだけ散歩に出かけ、大沢地域の自然を活用し、野川沿いや神代植物公園の自由広場の芝山で遊ぶなど、自然の変化を感じながら体を使った遊びを十分に楽しんだ。

幼児クラスは、午前はモンテッソーリ活動を中心に過ごし、その中でやりたい活動を自身で選択して、最後まで活動するなど、子どもが主体的に取り組む気持ちを育んでいった。

年長児においては、小学校就学を踏まえ、地域の方や小学生との交流会、第二椎の実子供の家との交流会など様々な人と関わる機会を設けることで、環境の変化や目の前の出来事に自分で対応する力を育てていった。

また、廃材を利用して制作をすることにより、自由な発想と続きへの期待感の育ちを育んでいった。

子どもが主体的に取り組める魅力ある教育・活動の工夫やモンテッソーリ教育の精神を主体とした自立への支援を行った。基本的生活習慣の確立、遊具や道具を使った運動遊び、年齢や発達に応じたルールのある集団遊びを経験し、楽しみながら体づくりを行った。人と関わる力を身につけられるよう努めた。

Ⅱ　保護者との共育てを意識し、一人ひとりの成長段階を共有しながら生活習慣の確立を目指す

保護者との共育ての意識については、感染症対策を十分に行いながら、保護者に向けて積極的に保育参観を募り、子どもや保育園に興味や関心を持ってもらえるよう働きかけていった。参観後の保護者からは、家庭では見られない子どもの姿に新たな発見があったという声が多く聞かれ、安心感につながった様子。

また、参観当日個人面談をすることで、普段聞くことのないできない家庭での子どもの様子や、保護者の悩みをじっくりと聞く時間を持つことができた。想像以上に子育てについて迷いがある家庭が多かったので、その後の様子を伝えあいながら共に子どもの成長に関わっていった。職員からは、保護者との連携がスムーズになったように感じるとの声があったので、職員にとっても良い刺激となったようだ。

Ⅲ　幼児教育機関として、モンテッソーリ教育を主体とした保育の充実及び専門性の高い人材育成と職員の定着化を図る

職員教育については、東京都が実施する保育士等キャリアアップ研修を中心に受講を進め、保育園に携わる者としての知識のレベルアップを目指した。

また、園内研修ではフェリス女学院大学准教授の山崎浩一先生に子どもの様子をみていただき、助言や講義を受けたりしたことで、職員の子どもの対する言葉がけや接し方に変化が見られ、スキルアップにつながった。

また、昨今ニュースに取り上げられる不適切保育について、自身の振り返りとして、全国保育士協会から出ている「人権擁護のセルフチェックリスト」を全職員対象に、５月と１２月に行い、子どもの人権について個々で振り返る良い機会とすることで、意識の持続を目指すことができた。

モンテッソーリ教育園内研修の充実のため、年間計画を作成し、有資格者が中心となって講師を務めた。モンテッソーリ教員資格取得については、教員資格取得のための研修費の一部を補助する制度を活用し、日本モンテッソーリ綜合研究所の通信教育で１名がデュプロマを取得。

Ⅳ　感染対策、衛生管理、安全管理の周知及び徹底

活動内容や行事のあり方、地域交流事業、一時預かり事業等においては、実施規模を徐々に元に戻していく中で、施設内の環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努めた。あわせて、職員の健康管理に気を配っていった。

安全管理については、これまで通り外部の方の来園の際の確認や、園児の登園確認など安全対策を図った。また、安全計画が義務化され策定をする。

地域交流スペースについては、別のセキュリティエリアを設定しており、防犯カメラを使用して人の出入りの確認に努めた。

感染症については、インフルエンザやアデノウィルス感染症、溶連菌が流行る傾向にあったが、感染予防対策を緩めることなく行うことで、最小限に止めることができた。

給食提供では、誤食ゼロを目指し、検食簿を活用して複数人でチェックすることで目標を達成することができた。

Ⅴ　地域子育て支援の継続と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する

保護者・地域と協力して、園児及び地域の子育て家庭の子どもたちの心を育み、成長を見守った。今年度は行事を徐々に戻したことで、多くの子育て家庭、特に父親の参加が多くみられた。

未就園児のいる家庭に向けて、地域活動のお知らせである「しいのみクラブニュース」の発

行を継続して実施した。親子リトミックなどのイベント開催時は利用者の関心も高かった。

一時預かり事業も利用者が増えていき、新規登録者も増加傾向にある。

また、保護者が子育てを負担に感じているように見受けられる場合には、一時預かり地域事業担当者や他職員が積極的に声をかけるなどし、相談先としての安心感を持てるよう働きかけた。

高齢者との交流では、近隣の高齢者施設を訪問して、ゲームをしたり、歌を聴いてもらうなど、楽しい時間を共有することができた。

３年ぶりに開催したした同窓会で、小学生と交流する機会を持ったり、学校探検や学童体験で小学生にお世話をしてもらうことで、小学校への期待感が高まったようだった。

１　園児について

園児とクラス編成

(1)　定員 107 名（現員 107 名）

年齢別

①　０歳児　９名　②　１歳児１８名　③　２歳児　２０名

④　３歳児　２０名　⑤　４歳児２０名　⑥　５歳児　２０名

(3)　クラス編成と職員構成

クラス名	対象年齢	定　員	在籍数※	保育士	職　員　数	
たんぽぽ	０歳児	９名	９名	３名	園　長	１名
すみれ	１歳児	１８名	１８名	４名	副園長	１名
つくし	２歳児	２０名	２０名	４名	主任保育士	１名
あんず１組	３歳児 ４歳児 ５歳児	１０名 １０名 １０名	１０名 １０名 １０名	４名	保育士	２０名
					看護師	１名
あんず２組	３歳児 ４歳児 ５歳児	１０名 １０名 １０名	１０名 １０名 １０名	３名	栄養士	１名
					調理師	２名
合　計		107 名	107 名	１８名	事務員	２名
					非常勤職員	１６名
					嘱託医	１名
一時預かり	満１歳～５歳	６名		２名		４６名

※　令和５年３月３１日現在